

令和3年度
事業計画書

社会福祉法人
放泉会



hは鳥をイメージ。また、human(人間関係)、放泉会、福祉のh。

下の青は放泉会の泉をイメージ。また、波紋は地域、情報発信の意。

全体として色合いの緑、青は早蕨(さわらび)を基本に自然をイメージしている。

基 本 理 念

福祉は人なり

人は心、こころはあい、愛は人

- ・命を尊び、利用者個々のニーズに沿った対応に心がけるように、職員の人間性、専門性を高めていきます。
- ・サービスの向上の為、「気くばり」「心くばり」「目くばり」「声くばり」を職員の心得として、質の向上を目指します。
- ・利用者の方には快適を、家族の方には安心感を得られる介護を行います。

令和3年度

社会福祉法人 放泉会

「福祉は人なり」

令和2年は、多くを新型コロナウイルス感染症対策に費やした年度であった。本年度は、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で、社会福祉法人として対応力の強化を図る。

感染症対策の強化、災害等の際、地元地域と連携した対応の強化を図り、利用者へ必要なサービスが継続して安定的に提供できる体制を築く。

介護、保育人材の確保と、現場の革新を行う。年々、大田市においても生産年齢人口が減少している中、人材確保の為、一層、各種関係機関と連携を図る。また、法人独自の修学資金制度を創設し、人材確保につなげる。

テクノロジーの活用にて、業務効率化、業務負担軽減を行う。

- ・サンシルバーさわらびも新築移転し2年目を迎える。地域に根ざした施設づくりを行う。
- ・令和3年より介護保険も第8期を迎え、介護報酬の改定が行われる。
特に、看取り期の利用者に対し、本人・家族との十分な話し合いや連携を行い、対応の充実を図る。
- ・昨年、入替の介護業務用ソフトを活用し、介護サービスの質の評価と科学的介護の取り組みの推進を行う。
- ・昨年度、低迷気味であった事業所においては、各関連機関との連携を取り稼働率のアップを図る。また、人員配置等を把握し利用者の調整、土曜日の開所等、他適正な加算の取得を行う。
- ・サンチャイルド長久さわらび園において、「音を奏でるサンチャイルド」のキャッチフレーズの基、園長の下で取り組み特色のある施設づくりを行う。
- ・人材育成の観点から、これまで停滞気味であった異動を定期的に行う。
- ・法人の、コンパクト化、スモール化を図る。
全事業所、部門での連携、情報共有の会議を毎月行う。
運営状況、財務等の報告を行い、情報の共有化を図る。
- ・前年に引き続き、法人を挙げて施行される諸制度に対応する。また報道される福祉サービ

スの不祥事に対しては、法令遵守責任者の下、各事業所の施設長、所長等の管理者が運営基準、人員基準等の法令遵守に努め、業務管理体制を強化徹底する。その一環として、定期的に法人内での相互に牽制を行う。

・本年、三瓶において50年ぶりに、第71回全国植樹祭が5月30日に開催される。地元の法人として、清掃、環境美化の活動に積極的に参加する。

また、コロナ禍において今後の成り行きを見ながら、さわらびシンフォニックバンドの各地域での演奏活動を行う。

池田の藤井邸、稲積さわらび庵において職員を派遣し法人の専門性を生かし、ふれあいサロン（出張出前講座として介護予防教室、認知症教室、管理栄養士による栄養講座、医療、介護保険の相談）を開催する。

事業計画

組織基盤強化

①役員会開催

- ・理事会 年5回（3カ月に1回以上）
- ・評議員会 定時評議員会 年1回（必要に応じて随時開催）

②監査

- ・監査会 年1回（決算時）
- ・内部経理監査 年2回（担当者による）

②役員研修会

- ・中国地区セミナー
- ・全国経営者研修会
- ・その他各種研修会

事業所別目標値（稼働率）

事業所名	目標値（稼働率）
サンシルバーさわらび（契約）	98%
サンシルバーさわらび（短期）	一日1名（空所利用）
グループホーム	99%
居宅さわらび	介護103名/月 予防6名/月
ゆうイング（契約）	98%
ゆうイング（短期）	75%
DSゆうイング	88%
サンチャイルド	135名/月
学童クラブ	通常期 57名

地域貢献事業計画

- (1) 各地域の行事、作業への参加
- (2) 地域の健康教室講師派遣
- (3) さわらびシンフォニックバンドの地域文化祭及び各種行事に出演
- (4) 地域の学童クラブに指導員派遣
- (5) 大田市社会福祉法人連絡会（仮称）にて他の社会福祉法人と連携を図る。
- (6) ふれあいホームを地域に開放する。

〈サンシルバーさわらび(空床利用型短期入所生活介護事業所)〉

＜サンシルバーさわらび方針＞

1. 居心地の良い生活環境の支援
2. 家族との繋がりを維持した生活支援
3. 個々に応じた活動の支援
4. 法人内の各施設との交流を強化する。
5. 各地域（特に池田、志学地区）への行事の参加、作業の参加をできる限り行う。

＜相談員部門＞

1. ユニットケアの追求（ICFを取り入れた行動）ICFの考えの徹底
生きるという全体像を捉えられるよう考えながら行動をする。（生活機能の3つのレベル「心身機能・構造」、「活動」、「参加」を全体としてとらえる国際分類）
2. ICT（情報通信（伝達）技術）活用の検討（労力の省力化を目指す）
3. 稼働率のアップを図る
4. 短期入所サービスの利用、調整に各ユニットリーダーも含め行う。

＜介護支援専門員部門＞

1. 入居者個々の24時間シートを基に生活リズムを把握した上で、地域交流、外出支援等を含めて、ユニット型ケアプランを作成する。多職種協働（介護、看護、訓練、栄養等）で自立支援につなげる。支援目標を共有し、統一した援助ができるように担当者会議だけではなく、ミーティングや連絡ノートを活用し共通認識を深める。
2. 契約、入居開始時より看取りを意識し、入居者や家族がどのような終末期を迎えたいのかという意向を各職種が把握する。終末期において、これまで歩んでこられた生き方、生活感を大切にして、その方らしさが最期まで保たれるようなケアプラン作成を行う。
3. 担当者会議には入居者やご家族の積極的な参加を目指し、信頼関係を構築する。必要に応じて（ご家族の高齢化、交通手段の必要性等）担当者会議を自宅で開催することで地域との関わりを持つ。家族参加が難しい時（就労や用事、感染症の時期）は、電話、メールの手段を用いて情報を共有する。
4. 短期入所利用者の居宅での担当者会議に出席する。家族や居宅ケアマネジャー、他サービス事業所と連携し、短期入所サービス利用時、利用時以外での様子の把握に努め、自宅での生活が継続できるよう支援する。

＜サンナース部門＞

1. 入居者個々の健康状態を常に把握し、異常の早期発見・早期治療に繋げる。
2. 入居時より看取りを意識したケアを行い、利用者、家族が安心して最期を迎えられるような看取りケアを心がけていく。

- ・入居時、面会時、家族より生活歴を確認し、その方らしさを取り入れた看取りケアを行っていく。
 - ・医療職としての知識、技術を生かし、多職種協働での看取りケアを行う。
3. 感染症対策として、職員、家族も含めての健康管理を徹底していく。
 4. 看護職員の連携強化をする為に、看護体制の見直しを行う。

<機能訓練指導員>

1. 自宅等への外泊時における動作を想定した個別性のある訓練を実施していく。
2. ベッド上でも快適に過ごせるよう他部門と連携し適切なポジショニングを行う。
 - ・個々に合ったポジショニングクッションを活用する。
 - ・ポジショニングの技術の統一化・向上のために勉強会を行う。
3. 適切な福祉用具を選択し、使用することによって残存機能の維持と向上、安全な生活動作に努める。
 - ・身体機能に合った車椅子を選択し、自走能力の維持・移乗動作の維持・安楽な姿勢を保持する。
 - ・移乗介助用具を正しく使用することで、入居者の安全安楽な移乗・職員のけが防止に努める。
 - ・個々の身体機能に合った福祉用具について多職種と意見交換を行う。

<サンヘルパー部門>

1. ユニットケアの追求
 - ・24時間シートを再作成し、個々にあった支援をしていく。
 - ・介護員個々の専門性と役割責任意識の向上に努めていく。
 - ・心に寄り添うケアの提供を図っていく。
 - ・入居者の居場所づくりと日々の暮らしを大切にする。
2. 介護機器を活用をしていく。
3. サービスの質の均一化を図る。

月に1回程度のリーダー会を開催し、各ユニット同士の質の均一化を保てるよう検討していく。

<サンキッチン部門>

1. 入居者・家族の意向を尊重し、嘱託医・多職種と協働して食事に対する楽しみを持つことや健康や経口摂取が維持できるような栄養ケア計画の作成、栄養ケアマネジメントを行う。
2. 嘱託医の発行する食事箋に基づき、必要に応じて療養食を行う。
3. アレルギー対応の指示を確実に実施する。また、本人・家族より聞き取った対応可能な嗜好等での食事内容の変更を行う。
4. 看取り期には家族にも協力して頂き、多職種と相談しながら入居者が食べたいも

の、好きなもの等を提供する。

5. キッチンと入居者との距離が近いことを活かし、より入居者への理解を深め、これまでの生活や状態に合わせた食事提供ができるように努める。
6. 個々が衛生意識を高く持ち、こまめな手洗い、確実な加熱、食品の適切な温度管理を行い、キッチン内の清潔に心掛け、衛生管理に努める。

〈ゆうイングさわらび(併設型短期入所生活介護事業所)〉

＜ゆうイングさわらび方針＞

1. 開苑 20 年目を迎えるにあたり、新型コロナウイルス感染状況を見極めながら、サンシルバーさわらび他法人内の各施設と一層密な連携を取り、福祉の拠点としての務めを担うよう共に歩みを進める。
2. 法人内での人事交流を定期的に行い、柔軟な対応が出来る職員の育成を目指す。
3. 職員研修、自己研鑽と啓発を目的として、新型コロナウイルス感染対策を確認の上、各種研修会に参加し、知識、技術の研磨を図ると共に、資格取得を促す。
4. 教育機関等の実習施設としての受入れをするとともに、新型コロナウイルス感染の終息を見据える中で、地元自治会、老人会、保育園、小学校等生活教育の場としての機能を可能な限り発揮する。

＜事務部門＞

1. 施設の窓口、施設機能の中心部として、新型コロナウイルス感染状況を見極めながら、緊張感を高めて対応し他部門との連携を取り、ご利用者やご家族に心地よいサービスになる様に努める。
2. 事務室の窓外の動きある（サンチャイルド・国道 9 号線・J R・市道の往来、サンシルバーさわらび）眺望を活かし、ご利用者の方に集いの機会をできる限り提供することにより、楽しく変化のある生活に生き甲斐を感じて頂く。
3. 会計事務については、専従オペレーターを配し、より一層の正確性、迅速性を高めるとともに、各事業所の事務員の連携をより密にして計画的に準備する。

＜相談員部門＞

1. 施設入所待機者を把握し入退所の調整を迅速に行う、また短期入所に於いてもスムーズに調整を行う。
2. ご家族・各関係機関との連絡調整を行う。
3. 施設及び各事業所の介護支援専門員と連絡・調整を密に行い情報収集に努める。
4. コロナ禍においてもできる限り変化のある生活を送っていただく。

＜介護支援専門員部門＞

1. 入居者・家族との信頼関係構築を目指し、担当者会議に入居者・家族の参加 50% 以上を目標とする。入居前の生き方や生活観の把握に努め、個別性のあるケアプラ

ンを目指す。

2. 契約、入居時より看取りを意識する。終末期を迎えられた方のこれまでの生き方や生活観を大切にし、その人らしさが保たれるようなケアプランの作成を行う。
3. 目標を共有し、入居者の意向が叶えられるようにそれぞれの専門職間の調整役を担う。統一した援助を行えるように担当者会議だけでなくミーティングや連絡ノートを活用し、共通認識を深める。
4. 定期的なモニタリングによりケアプランの実施状況や、入居者の計画に対しての満足感を把握し、次の計画に活かして行く。
5. 短期入所利用者の居宅での担当者会議に出席する。在宅連絡ノートや送迎等の機会を活用し、情報共有を行い、その情報を介護現場と共有する。短期入所利用時以外様子の把握し、在宅生活が継続出来る様に努める。

<機能訓練部門>

1. 個々のニーズに応じた機能訓練を基本とし、自立支援・機能低下の予防・廃用性症状の進行防止に取り組む。入居者本人、家族の希望に沿った目標の設定を行い、多職種と連携し日常生活を通しての機能維持・回復を目指す。
2. 福祉用具の適切な選定、活用を行い、代替機能（ADL等）の獲得や身体的苦痛の軽減に努める。又、車いす、ベットサイド、居室配置等の環境要因による行動制限・負担を減らす為、安全点検・確認を定期的に行う。
3. 短期入所利用者にも入所中に運動の機会を積極的に持ってもらい、機能低下予防に努める。機能維持の為に個別の訓練が必要であれば実施する。

<ゆうナース部門>

1. 日常生活の中で入居者の変化を的確に捉え疾病の早期発見・早期対応にあたり、健康管理に努める。
2. 多職種協働の看取りケアに取り組む。
3. 介護職員が安心したケアが実践できるよう、情報共有し医療に関する助言を行う。
4. 感染症対策の継続した意識啓発と実施を行う。また感染症発生時には嘱託医の指示の下、早急な終息を目指す。

<ゆうヘルパー部門>

1. 入居者一人一人と真摯に向き合
個々の心身の状態、生活歴や生活リズムを把握し、入居者・ご家族が希望される生活を多職種協働で支援する。
2. 看取りケア
 - ・入居者や家族が安心した終末期を迎えられるよう、ご本人・家族と寄り添い、その方が望まれる環境を整える。
 - ・家族の心身の疲労や精神的負担に配慮しつつ、安心して“看取り”を「ゆうイン

グで」と希望されるような施設にしていく。

3. 知識・技術の向上

外部研修への参加、施設内勉強会、現場でのブロック間の人事交流を行い、新しい介護知識・技術を実践することで、職員のスキルアップと業務の幅を拡げる。

4. 感染症対策

受診等の外出時、外部との接触が予想される時はマスクの着用、うがい・手洗いを徹底する。面会は直接接触を避けガラス越し、IT 機器を活用する。

<ゆうキッチン部門>

・調理

1. 御利用者が喜ばれる行事食などは、御利用者の嗜好を踏まえて地産地消の手作りを取り入れ家庭的な雰囲気を楽しんで頂くよう努める。
2. 介護・看護と連携をとり、御利用者の食欲不振や嚥下状態等の体調面にも目を向け個別対応の食事提供をする。
3. コロナウイルス感染予防の3密回避を徹底し、また季節流行時の感染が無いように体調管理に気をつける。食中毒・感染症予防・異物混入防止等、安心・安全な食事を提供するため、職員個々が衛生意識を高く持つ。

・栄養

1. 食事に関しては、他部門の業務を理解し合って連携を深め、報告・連絡・相談を密に行うことで様々な視点から御利用者に関わり、満足感を感じて頂けるよう栄養管理に努める。
2. 御利用者、御家族の意向を尊重し、多職種共働により良いケアができるように栄養ケア計画書を作成する。また、嘱託医とも連携を図り、御利用者の健康と経口摂取が維持できる継続的なサポートを行う。
3. 療養食加算の対象となる時には、迅速に加算が取得できるように嘱託医と相談し家族に同意を得る。

<グループホーム>

1. 環境

- ・家庭に近い環境を提供に努め、馴染みの関係作りにより、認知症の緩和を図る。
- ・行事、外出を計画し、季節感や非日常的な場を楽しんでもらう。

2. 個別ケア

- ・個別性のある援助計画を作成し、個々の状況に応じて自立した生活が送れるよう援助する。

3. 食事

- ・利用者の楽しみの一つである「食」を、旬の物、地元の物を工夫し、グループホームならではの食を提供する。

4. 健康

- ・排泄、水分、栄養、睡眠を重視し、個々の健康管理に努める。
 - ・嘱託医と連携を取りながら、利用者の健康状況を把握する。
 - ・歯科医師により口腔ケアに係る助言及び指導を受け、利用者の口腔ケアを徹底する。
 - ・マニュアルに沿って、感染予防、食中毒予防に努める。
5. 家族との連携
 - ・家族には話しやすい雰囲気作りや、利用者の生活の様子を伝え、また、運営推進会議への参加を通して連携を密にし、「安心」の提供を行う。
 6. 地域交流
 - ・地域との交流、かかわりを大切に開かれた施設として地域の理解を求めていく。
 7. 質の向上
 - ・認知症、介護に関する研修に参加し、職員の質の向上を図る。
 - ・放泉会の他事業所との連携を取り、技術や知識を得ながら質の向上に努める。
 8. 防災
 - ・火災や災害に速やかに対応できるよう、防災訓練を行う。

＜デイサービスゆうイング方針＞

1. 選ばれるデイサービスの基盤作りができるよう地域に根ざした事業所を目指す。
2. 職員間の情報共有・統一したケア、また関係機関との連絡を密にし、信頼される事業所運営を行うと共に、ご利用者・家族に満足いただけるデイサービスを目指す。
3. 送迎については、個別に関する注意点・留意点を随時更新し、送迎時の事故や苦情をなくす。また臨機応変に送迎に対応出来る様心掛ける。
4. 新型コロナウイルス他感染症蔓延予防に対し、利用者の健康管理への助言や体調観察を行い「持ち込まない」「持ち出さない」「拡げない」を原則とし対応に努める。
5. 身体機能向上だけに着目せず社会生活・尊厳の保持も含めた状態改善を意識する。利用者が望む在宅生活・地域との関りが継続していけるケアの提供を行う。

＜居宅介護支援センターさわらび＞

1. ご利用者のご家族に安心感を持っていただける対応を行う。
2. 医療との連携を重要に受け止め、タイムリーにサービスが受けられるよう努める。
3. 地域と顔の見える関係作りを目指す（民生委員、町づくりセンターとの関わり等）
4. 地域包括ケアシステムの考え方に基つき、介護保険内のサービスだけでなく、他機関との連携も密に取り、保険外のサービスもプランに積極的に盛り込む。
5. 近年の各地による自然災害より、利用者に対する有事への対応としてアセスメントをする事でリスク管理の一つに役立てていく。

＜サンチャイルド長久さわらび園＞

～♪音を奏でるサンチャイルド♪～

笑顔で♪たのしく♪元気に♪“成長の音色”を奏でましょう！

近年、高度な情報化社会の進展や新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の到来により、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わってきた。

就学前の子どもたちへの教育が、その子の人生を豊かにするうえでとても大切な時期であり、保育所での教育は子どもたちの未来を左右する大切な場所である。

子どもたちの一日一日を大切に、育つ力を見守り、保護者が安心して預けられる社会福祉施設（保育園）として地域に根差した子育て支援を推進します。

1. 保育理念

- ★子どもたちには安心・安全を 保護者には安心感と信頼感を与える保育を行います。
- ★子どもたち一人ひとりを理解し、個々に応じた丁寧な対応を心がけます。
- ★子どもたちの健やかな成長のために、保育園とご家庭が“両輪”となり共に育てる「共育」をすすめます。
- ★職員の人間性、専門性を高め、保育の質の向上を目指します。

2. 保育目標

～太陽の子 サンチャイルド～

- ◎生命を大切にたくましく生きる「げんきな太陽の子」
- ◎友だちとなかよく、思いやりの心を持つ「やさしい太陽の子」
- ◎五感を養い感性豊かな創造力を持つ「かがやく太陽の子」
- ◎自分のことは自分でできる「いきいき太陽の子」

3. 保育方針

- 温かく共感しながら受容的・応答的な保育
- 健康で丈夫なからだを育む保育
- 集団生活を通じて協調性や社会性を育む保育
- 活動や体験を通して感性や創造性を育む教育
- 一人ひとりの個性を尊重し自主性を育む保育
- 家庭との連携を大切に、子どもの成長を見守る保育

4. 保育内容

☆乳幼児期の「愛着の土台づくり」 ＜0～2歳の段階で＞

- *生きていくための土台をつくるための必要な能力や知識を身につけます
- *非認知能力の始まりは、0～2歳の段階でのアタッチメント（愛情の絆）からであり、①基本的信頼感 ②自己肯定感 ③アタッチメント（愛情の絆）人間の基盤を育てます

☆基本的生活習慣を身に付けます

- *返事、あいさつ、手洗い、うがい、歯磨き、整理整頓、食事、排泄、着脱衣の習

慣を身につけ自立の芽生えを促します

☆幼児期の終わりまでに育ってほしい“10の姿”を育成します

- ①健康的な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活と関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命の尊重 ⑧数量・図形、文字等への関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

☆多彩なプログラムで豊かな感性を育てます

○体力づくり：運動・散歩・自然体験・ダンス

○表現活動：ダンス・リトミック・リズム遊び・歌・マーチング・音楽・絵画・造形

○体験活動：季節の行事・地域行事・田植え・稲刈り・野菜づくり・登山・サンシルバーさわらびの訪問など

○食育活動：三色運動・収穫祭・親子クッキング・郷土料理・食と文化・地域食交流

○文化交流：茶道・英語であそぼ！・絵本の読み聞かせ

5. 保育概要

(1) 保育年齢：生後57日～就学前（定員120名）

(2) 特別保育：一時預かり保育・延長保育・障がい児保育・病後児保育

(3) 地域交流：子育て講座事業

・世代間交流（サンシルバーさわらび・ゆうイングと交流・地域の方と田植え稲刈り・茶道の交流）

・異年齢・異校種交流（伝統文化・市内小学校・市内保育園との交流）

・在宅子育て家庭との交流（ほっとな会との交流・ふれあい開放デー）

6. その他

・職員研修会（保育に関する最新の知見や動向を学び、職員の資質向上、スキルアップを図る。）

・保護者向け子育て学習会（親学・クッキング・親子ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなど学び合いながら子育ての輪を広げます）

・情報発信（ホームページ・活動状況の可視化を図り、園と保護者が共有し円滑なコミュニケーションを図ります）

<長久ゆうゆう学童クラブ>

1. 理念

保護者の就労等で支援を必要とする子どもたちに、「一緒に遊びに熱中する」という体験を通じて、小学生期の人間形成にとって大切な主体的にたくましく生きる力を育むとともに、安心して、のびのびと放課後を過ごせる場所を提供することによって、子どもの健全な育成を図ります。

2. 基本方針

○遊び、学び、会話を通じて、それぞれの子どもの気持ちに温かく寄り添いなが

ら接していきます。

○保護者と共に、宿題・身体づくり・仲間づくりに努め、子どもたちが主体的に過ごせるよう支援していきます。

○地域との交流や自然体験を積極的に取り入れます。

○子どもの人権・健康・安全に配慮し、危機管理に努めます。

3. 目標

○日々を主体的に過ごせるように

- ・一日の生活の流れをパターン化しています。

- ・自分で自分の命が守れるよう、毎学期ごとに避難訓練（火事・地震・風水害）、不審者対応訓練をしています。

○日常生活に必要な基本的生活習慣を身に付けるために

- ・手洗い・うがい・私物の整理整頓・後片付けなど丁寧に指導しています。

- ・いろいろな場面を通じて、友達と一緒に過ごす上で必要な協力や分担、決まり事を教えています。

4. その他

- ・職員のキャリアアップ研修会への参加（資質の向上を目指します）

- ・情報発信（マチコミなど活動状況の可視化を図り、学童クラブと保護者が共有し円滑なコミュニケーションを図ります）